

1. 北海道（地域別調査機関：（株）北海道二十一世紀総合研究所）

（-：回答が存在しない、：主だった回答等が存在しない）

分野	景気の現状判断	業種・職種	判断の理由	追加説明及び具体的状況の説明
家計動向関連 (北海道)	良く なっている やや良く なっている	住宅販売会社 (経営者)	お客様の様子	・円安株高でムードが非常に良くなっている。
		商店街(代表 者)	単価の動き	・卒業、入学等のシーズンとなり、パール等の装身具の売行きが良くなっており、客単価も前年と比べて20～30%上がっている。
		商店街(代表 者)	お客様の様子	・地域によって寒暖の差があるため、購入する商品が多少違うものの、細身の花柄のパンツなど、春物のトレンドに対しての客の関心が高く、興味を持って購買している客が比較的多い。
		百貨店(売場主 任)	単価の動き	・一般商品の動きも良いが、宝飾品やラグジュアリーブランドが好調である。
		百貨店(販売促 進担当)	販売量の動き	・まだまだ雪は残っているものの、日差しが春めいてきており、春物商材が動き出してきた。これから雪解けとともに、ますます購買に対する意欲は高まってくる。
		百貨店(販売促 進担当)	それ以外	・大雪などの天候要因を除けば堅調に推移している。天候要因を考慮しても買上客数は上向き傾向にある。都心の店舗のように、新政権の経済対策の効果や株高が直接的に影響しているとは思えないが、心理的には東日本大震災以降の消費控えからの回復が感じられる。
		百貨店(役員)	来客数の動き	・客単価は変わらない又は下がっているが、来客数及び買上客数が伸びている。消費者の買いたい気持ちが高ぶってきている。
		スーパー(店 長)	販売量の動き	・1月から3月までの販売量が少しずつ右肩上がり で、増えてきている。
		スーパー(店 長)	販売量の動き	・衣料品については、低温が続き、春物本来の動きが多少鈍いが、高単価商品の動向が良い。食品については、販売量が堅調であることに加えて、単価も上がっており、好調である。住居については、雪解けが遅く自転車が不振だが、携帯電話、入園入学用品を中心に大きく伸長している。
		スーパー(店 長)	来客数の動き	・雪が残るなか、来客数が落ちるとみていたが、売上の状況を見ても、客の動きを見ても、そうはなっておらず好調である。
		衣料品専門店 (店員)	来客数の動き	・灯油等の値上げが冬場の家計を圧迫していたが、春になり、圧雪スケートリンクのような道路の雪が解けてきたことで、外出しやすくなり、それにともない購買動向も上向いてきた。
		乗用車販売店 (従業員)	販売量の動き	・北海道特有の影響ではあるが、暖かくなるにつれて、販売量、来客数ともに上向いてきている。今年は雪が特に多かったため、冬場の客の動きが鈍かったが、春先になり、雪が段々と解けてきて、一気に流れがきている。
		乗用車販売店 (営業担当)	販売量の動き	・当初想定したよりも受注量が上向きになってきている。全国的な傾向ではあるが、それに伴いメーカーも販売計画の上方修正を発表してきた。
		自動車備品販売 店(店長)	来客数の動き	・前年と比較して来客数が伸びていることに加えて、カーナビの販売台数が伸びている。
		高級レストラン (スタッフ)	来客数の動き	・3月に入り、卒業や進学、転勤などの歓送迎会の客単価が上昇している。最近までは低単価コースに集中していたが、今は高単価商品のコースが多くなっている。
		スナック(経営 者)	来客数の動き	・やはり新政権の経済対策の効果が少しずつ出てきている。人が飲食街に少しずつ出てくるようになっており、客が増えてきている。
	観光型ホテル (経営者)	来客数の動き	・外国人旅行客数が増加傾向にあることに加えて、国内の個人旅行客数が少しずつ回復しており、計画値を上回ってきた。	
	旅行代理店(従 業員)	販売量の動き	・2012年度の決算見込を達成予定である。年明けから世上の雰囲気は上向いており、数値が伸びている。	
	旅行代理店(従 業員)	販売量の動き	・3月に入っても降雪が多く、特に3月2日から3日にかけては管内で死者が出るほどの暴風雪であった。そのため、JRや高速バスが天候により運休となるなか、航空機は比較的運休が少なく、札幌～女満別路線の需要が高まった。	

	観光名所（従業員）	来客数の動き	・当社の利用乗降客数において、3か月前の12月は前年比97.7%であったが、今月は25日までの実績で前年比102%と増加している。
	美容室（経営者）	お客様の様子	・価格が高くても性能が良い商品であれば、以前よりも説明を聞くようになったり、購入する傾向が出てきた。従来は価格重視の傾向が顕著だった。
	美容室（経営者）	お客様の様子	・来店客から、国内や海外に旅行する話がいつもよりも頻繁に聞かれる。
	設計事務所（所長）	お客様の様子	・新規の問い合わせが増えている。
	住宅販売会社（従業員）	来客数の動き	・転勤、引越しのシーズンに入ったこともあり、この機に分譲マンションを購入しようと考えている客が増加している。その結果、モデルルームへの来客数が増えている。
変わらない	商店街（代表者）	お客様の様子	・3月になり、世の中が全体的にせわしく動いているが、その割に売上の増加が見込めない。
	一般小売店〔土産〕（経営者）	お客様の様子	・台風並みの突風と吹雪が続いたことが消費を落としている。今の状況ではあまり良くなるどころまで見えていない。
	一般小売店〔酒〕（経営者）	販売量の動き	・3月は第1週及び第2週の週末が例年にないほどの吹雪となり、交通が遮断された状況もあり、極端に客足が鈍かった。通常であれば週末は売上に期待できるが、今月は週末の売上が非常に良くなかった。後半になり、幾分持ち直してきたが、全体的にはまだ良くなった印象はない。
	百貨店（売場主任）	お客様の様子	・春物の婦人関連のジャケットやコートの動きが活発化している。新ブランドを導入したこともあり、パンツコーナーの売上が顕著に伸びている。しかし、紳士関連に関しては、春物のコート、スーツ、ジャケット関係の動きが前年比80%台と非常に厳しい状況である。
	百貨店（売場主任）	お客様の様子	・24日現在、全館での売上は前年比97.3%と前年割れである。買上客数は前年比96%と前月を下回っている。一方、客単価は前年比100.7%とかなり前年並みとなっている。
	スーパー（役員）	来客数の動き	・3月は順調に見える走り出しであったが、その後、例年にない大雪に見舞われた上、週末も降雪が続いたため、来客数が大きく落ち込んだ。客単価は前年比100.6%とやや上昇しているが、来客数の落ち込みの影響が大きく、売上は前年比で2.0～2.5%のマイナスで終わりそうな気配である。
	スーパー（役員）	販売量の動き	・3月に入り、入学進学のお祝いギフトの動きが好調である。明るい話題が多いせいか、客の財布のひもが若干緩んでいる。
	コンビニ（エリア担当）	来客数の動き	・客単価は上昇しているが、たばこの販売減にともなう客の来店回数の減少が続いている。
	コンビニ（エリア担当）	販売量の動き	・公共工事が減少しており、工事現場作業者の来店が減少している。また、早朝の来客数も減少している。
	衣料品専門店（店長）	来客数の動き	・景気が改善するような流れになっているが、中小企業は給与のベースアップもなく、厳しい状況にある。
	家電量販店（経営者）	販売量の動き	・大型商材の販売数が絶対的に少ない。LED照明は売れてはいるが、単価低下が激しく、全体的な売上増にはつながっていない。
	家電量販店（店員）	来客数の動き	・3月後半は来客数、売上とも前年を上回った。春需要が高まってきた。
	乗用車販売店（従業員）	販売量の動き	・ショールームへの来客数が一向に増えず、にぎやかさが無い。
	その他専門店〔ガソリンスタンド〕（経営者）	販売量の動き	・石油製品価格が高止まりしているため、販売量が低迷している。
	高級レストラン（スタッフ）	販売量の動き	・春休みに入った3月後半から、昼は家族連れの観光客の入りが良いが、夜は厳しく、全体ではほぼ前年並みである。マスコミで報道されているような景気が良くなっているという実感はない。
高級レストラン（スタッフ）	お客様の様子	・大雪などの影響で昼食が伸びず、前年並みとなった。夕食は週末の早い時間帯に家族連れなどでにぎわったが、その後が続かず、前年を下回った。地域別にランチの状況を見ると、都市が低価格で地方がやや高めの傾向にあるが、地方の良心的な店は来客数を減らしても堅調な商売を続けているようだ。	

	観光型ホテル (スタッフ)	来客数の動き	・恒常的に近隣アジアからの観光客の入込が低調である。一方、国内旅行商品とビジネス目的の宿泊客は堅調である。	
	旅行代理店(従業員)	それ以外	・航空運賃の低価格化に反応して利用件数が伸びているが、結局は総売上と高収入商品の取扱額の低下につながっている。	
	タクシー運転手	来客数の動き	・3月は12月に次いでタクシーの売上が良い月である。今年は中旬までは雪の日が多く、乗客数も売上も前年より良かったが、中旬以降は暖かい日が多く、前年より売上が悪くなった。1か月を通すと前年並みの売上である。	
	タクシー運転手	販売量の動き	・前月までの周りの状況を見ると、若干持ち直し傾向がみられ、やや上向き傾向にあるとみていたが、当社においては、今月に入ってから下降気味になってきている。この先も経済の行方によっては不安定な状況を招くのではないかとみている。	
	タクシー運転手 その他サービスの 動向を把握できる者 [フェリー](従業員)	来客数の動き 来客数の動き	・観光関係も含め、注文数は前年並みである。 ・悪天候が多かったことから欠航回数も多く、結果的に前年の輸送量を下回った。	
やや悪くなっている	商店街(代表者)	来客数の動き	・入学卒業及び就職等のための買物客の動きが中旬以降も鈍い。デパ地下の食料品売場については、例年並みの様相を呈しているが、それ以外の目的を持った来街者は減少している。これは、中心部に生活圏がある住民のみが買物をしていて、郊外からの客は減少しているということである。	
	商店街(代表者)	来客数の動き	・とにかく来客数が減っており、前年比80%となっている。卒業旅行等で来ている人が当地には少ない。	
	衣料品専門店(店長)	販売量の動き	・なかなかこの不景気からは抜け出せそうになく、回復にはしばらく時間がかかる。	
	家電量販店(地区統括部長)	販売量の動き	・いまだに家電製品は壊れてから買換える傾向が強くなり、新政権の経済対策の効果は出てきていない。また、新入学、卒業といったシングル需要が少子化の影響で年々減少している。	
	タクシー運転手	販売量の動き	・今月は思ったよりも歓送迎会が少なかった。タクシーの売上は、3か月前と比較すると6.4%も落ち込んでいる。前年実績と比較しても若干落ち込んでいることから、やや悪くなっている。	
	通信会社(企画担当)	お客様の様子	・今春の柱の1つとしている映像サービスに対して、客の加入意向が想定よりも低い。学生向け割引にだけ客が反応している。	
	パチンコ店(役員)	単価の動き	・25日から原油が3~5円値上がりしたが、まだまだ寒い北海道では暖房が必要であり、この値上がりは光熱費等の経費を圧迫することになる。運送業もこのままでは値上げせざるを得ない状況になるとみられる。	
	悪くなっている			
企業動向 関連 (北海道)	良くなっている	-	-	
	やや良くなっている	食料品製造業(経営者)	それ以外	・新政権の経済対策の効果で、客のマインドが変わりつつある。
		建設業(従業員)	取引先の様子	・医療施設の耐震診断の義務付けや耐震化交付金の復活で、耐震診断の引き合いが多くなっている。
		通信業(営業担当)	受注量や販売量の動き	・受注量は明らかに回復傾向にあり、ここしばらく続いていた単価の下落も底を打ち、わずかではあるが上昇してきた。
		コピーサービス業(従業員)	受注価格や販売価格の動き	・受注量は確実に増えている傾向にあるが、企業の対応が慎重であることも確かである。設備投資には前向きになってきている。
		その他非製造業[鋼材卸売](役員)	受注量や販売量の動き	・商品の売行きは鈍いが、設備関連の受注が多数あったため、景気は上向きである。
	変わらない	食料品製造業(団体役員)	それ以外	・大型補正予算や円安で好影響を受ける輸出産業の大手企業等は業況が上向くが、反面、円安によって輸入原材料、原油価格が上昇しており、食品を含む生活必需品は値上げで悪影響が生じている。
食料品製造業(役員)		受注量や販売量の動き	・前年と比較して、やや悪い状況で推移している。	

	家具製造業（経営者）	受注量や販売量の動き	・対住宅メーカーの物件では3月に工事や納品が集中しており、売上は伸びているが、受注は伸び悩んでいる。	
	輸送業（営業担当）	取引先の様子	・全国各地にて太陽光発電基地の建設が盛んであるが、地域によってはソーラーパネルに過不足が生じており、輸入品、国産品を含めて国内輸送が大量に発生している。また、当地では、3月25日に台湾向けの溶解パルプが20フィートコンテナ10個分が初めて輸出された。	
	輸送業（支店長）	受注量や販売量の動き	・補正予算も決まり、期待感が高まっているものの、物の動きに変化はみられない。前年比、前月比ともほぼ同じ取扱量にとどまっている。	
	金融業（企画担当）	それ以外	・設備投資は医療福祉施設の新増設やメガソーラーの建設で底堅い。観光関連はLCCの就航が追い風となっている。しかし、円安などによる原材料価格の上昇で企業収益は厳しくなっている。	
	司法書士	取引先の様子	・国の経済政策がどの程度浸透しているかは疑問であり、地域には回復の兆候がほとんどみられない。土地取引や建物建築等においても前月から変わるところはない。	
	司法書士	取引先の様子	・不動産取引については、あまり変化がみられない。株高だけ先行している状況に変わりはない。	
	その他サービス業〔ソフトウェア開発〕（経営者）	受注価格や販売価格の動き	・作業量は増えているが、少額の案件が多く、条件の厳しさは一向に改善される様子がない。	
	その他サービス業〔建設機械リース〕（支店長）	取引先の様子	・政権交代による景気回復への期待感が先行している。地方都市においては都市部ほどの波及はなく、期待外れの様相を呈している。実態として、取引先の倒産も増加傾向にあり、決して上向きとは言いづらい状況にある。	
	やや悪くなっている	司法書士	取引先の様子	・例年は建築に向けて土地の売買が活性化する時期であるが、今年は動きが鈍いままである。
	悪くなっている	出版・印刷・同関連産業（従業員）	受注量や販売量の動き	・販売量、価格ともに下降している。
雇用関連	良くなっている			
(北海道)	やや良くなっている	人材派遣会社（社員）	採用者数の動き	・中途採用のニーズが以前に比べて高く、当社から紹介する人材の採用数が増加している。以前は採用基準が高止まりしており、なかなか採用に至らなかったが、企業業績も若干改善したのか、採用までの期間が短縮している。とにかく早く人が欲しいという会社の採用意欲の表れか、求人数も前年の暮れより1割程度増えている。
		求人情報誌製作会社（編集者）	求人数の動き	・物流関係、サービス業、建設業での人手不足感が顕在化してきている。景気の上向き傾向と労働力の不足が相互に働き、求人倍率を上げている。
		求人情報誌製作会社（編集者）	求人数の動き	・求人広告件数に関しては、着実に前年を上回っている。政権交代後の年度替わりを控えて期待感を感じる。
		求人情報誌製作会社（編集者）	求人数の動き	・個人消費関連業種が堅調な動きをみせている。特に小売、生活関連サービス、娯楽業などに勢いを感じる。先行き期待感と多少の安心感などからか、ファッションや観光関連も順調に推移している。アルバイトやパートについては、人材の入れ替わりが多い時期であるが、例年よりも良い数字が出てきている。一方で、道外の製造業求人はいましばらく低迷状態が続いている。
		職業安定所（職員）	求人数の動き	・新規求人数は前年から6.8%増加し、37か月連続で前年を上回った。また、月間有効求人数も前年から10.2%増加し、37か月連続で前年を上回った。
		職業安定所（職員）	それ以外	・2月の管内の有効求人倍率は0.66倍と前年を0.12ポイント上回り、管内としては平成5年3月の0.65倍以来の20年ぶりの高水準となっている。
		職業安定所（職員）	求人数の動き	・一般住宅建築やリフォームの建築作業員、給排水、空調設備の配管工の小口求人が増加しているほか、スーパーや大型商業施設の衣料品販売店での店員の増員や欠員補充による求人増もあり、景気回復の兆しととれるような求人の動きがみられる。

変わらない	人材派遣会社 (社員)	求職者数の動き	・求人数が多い時期だが、求職者数も増えており、求人倍率には変わりがない。
	新聞社 [求人広告] (担当者)	求人数の動き	・前年と比べて、募集広告の件数が235件、売上で32.5%増と大きく伸長した。単月の売上としては、過去10年間で2番目に多く、小口ではあるものの地場企業からの求人も増加傾向にある。
	職業安定所 (職員)	雇用形態の様子	・2月の新規求人数は前年比で14.3%の増加となった。新規求職者数は前年比で6.8%の増加となった。月間有効求人倍率は0.76倍となり、前年の0.63倍を0.13ポイント上回った。ただし、新規求人数のうち正社員求人の占める割合は45.6%と高く、求人者と求職者との間における職種や労働条件のミスマッチも少ないことから依然として厳しい状況にある。
やや悪くなっている	-	-	-
悪くなっている	-	-	-